

第2回特別職報酬等審議会議事録

日 時：令和6年10月25日（金）午後1時25分～午後3時40分

場 所：町民生活センター2階 集会室

出席者：委員8名、議員定数等調査特別委員会委員長1名、事務局4名

1 審議、意見交換

発言者	内容
	<p>第1回のときにいろんなご意見が出る中で、もっともなお話が多かった。田舎に住んでいる私どもの立場だと、企業の初任給は真似できない印象がある。とはいっても、早急に森町の議員報酬も上げていかななくてはいけないと痛感する。ただ、19年ぶりに改定するにあたって、事務局から定数と報酬は別に考えるような説明があった。町のいろいろな厳しい状況の中でも、報酬を大幅に上げることは、どちらかというとなげたいという気持ち。ただ、やはり議員の皆さんが痛みを伴う定数を削減するという前提が無いと、12人の定数そのまま給料を考えるとというのは、とても考えられない。そのまま考えてくれということなら、現状維持としか考えられない。私も、町民に対して責任ある立場である。結果が報告されれば、現実に町民から相当いろんな意見が出ると思う。そこでそうじゃないぞと、2名、あるいは3名を削減して、自分たちも痛みを伴う中での決断であって、決して簡単に給料だけ上げた話では無いという説明もできる。削減を何人にしてくれるかという報告をもらえれば、前向きにある程度考えられる。それであれば、森町だけ報酬が突出していても良いと思う。定数をそのまま報酬だけ考えるというのはやりづらい。</p>
委員	<p>議員定数特別委員会について、資料で結果は書かれているが、中身が分からない。経過が見えないので、その説明を。</p>
特別委員会委員長	<p>議員定数については、7回の委員会の中で協議した結果、現状では12人にすべきとなりました。意見の中では、なり手不足解消や若い人の議員への挑戦に対する環境整備という点で、定数を減らして例えば30万くらいに報酬を上げるべきではないかという意見もありました。ただ、森町はご承知のとおり行政区域が大変広い。また、議会は合議制の機関ではありますが、例えば一昨年のような大規模な災害が発生すると、被災時には地域から出ている議員が情報収集したり相談相手になったりしないと、なかなか事が進みません。それと、人口規模・産業構造が森町と似通っている類似団体31町村の平均が、森町より2名多い14名でした。また、平成16年のとき合併せず単独の道を決めたときに、16人から4人減らした経緯があって、最終的には12人でよいという形になりました。また、現在の議員報酬は、平成16年12月議会で10%カットされて、20年その額で据え置いてきています。20年も経っているので、ある意味一つの節目だと考えています。それから今の20万3千円という金額は、比較しては大変失礼ですが、役場の会計年度任用職員、いわゆる嘱託職員と同程度です。嘱託職員は社会保険制度が完備されているので負担の半分</p>

		<p>は事業主が納めますが、議会は議員共済制度が無くなって、今は国保あるいは国民年金を全額自己負担で支払っています。更に、議会議員は4年に一度選挙があり、選挙費用もそれなりに掛かります。議員の中には職員の平均給与ぐらいはほしいという意見もありました。そうしたことを踏まえて、皆さんにご理解をいただいて引き上げをお願いしたいという思いであります。</p>
	委員	<p>議員の報酬自体は、しっかり上げた方が良い。一方で、議員定数については、町政の状況において、人口が増えて税収が増えることによって使えるお金が増えてくる状況なら報酬を上げるというのは良いと思うが、税収が落ち込んで人口減少が進んでそこに歯止めがかからないとなると、ある程度先手を打つということで、歳入に対して歳出をしっかり抑制するとか、今の報酬の枠内で配分していくとかという考えが必要だと思う。良い方法があるかということ、やはり委員の議員を減らすという考え方が分かりやすい方法かなと思う。自身の取引先の企業さんも経済状況が苦しいところが多く、会社の存続自体が大変になってきているというケースも出てきている中では、町民の理解を得るという観点からいくと、何かしらの痛みを伴うとか、現状の支出の枠を超えないとか、超えるにしてもそれなりの理由が必要だと思う。</p>
	委員	<p>今回の報酬の引き上げに関しては、今までの経緯を含めて必要なことだと思う。なり手不足というポイントがあるが、今回のこの中身がなり手不足に効くかという見方をした場合、直結しないと思う。そこを踏まえたときに減らすことだけがありきではないが、この中身で行くなら、議員定数の見直しは必要な条件の一つだと思う。一方で、周りと比較して、少なからず報酬の引き上げが必要だということも承知しているので、相反する部分もあるが、そこは分けて考えた方が良いと思う。</p>
	特別 委員 会 委員 長	<p>議員の考え方としては現状では12人が望ましいとしましたが、森町も人口減少が続いており、このまま人口減少が続けば下げないといけないという認識は、当然全員が持っています。将来的にいつ下げるかは別として、下げなければいけない。川根本町では、最近定数12名を10名まで削減しています。人口推移を見ながら、類似団体等と比較しながら、現在の定数・報酬が妥当かどうかについては、毎年、継続的に検討していきたいと思っています。</p>
	委員	<p>森町の風土からして、選挙に出るような気質のある若者があまりいないのが現状である。どうしたらもっと若者が手を上げて立候補してくれるのか。たとえ報酬を25万にしても、たぶん若者の立候補は出ないのではないかな。町の活性化という意味で、定数を数名減らして30万くらいの報酬にすれば、ある程度若者の立候補も出てくる可能性はある。近隣や全国市町との比較ではなく、同じような市町より突出しても良いから、財政状況の中で出せるようであればきちんと出して、優秀な方たちに出てもらえるのはどうか。町民から反論があっても、説明ができるようにしたい。議員の大変さは重々承知なので、前向きに良い形にするために痛みを伴う改革を覚悟していただけたら良いと思う。</p>
	委員	<p>報酬を上げることは賛成。一般企業でもあるように、努力しないでただ給料だけ上がるということはない。人員数と報酬というのは費用対効果であるので、その費用対効果がきちんと釣り合っているかということが説明できないといけない。その中</p>

		<p>で委員がおっしゃるように、定員数というのは直接的な人件費であるため一つの案にはなと思うが、それだけが費用対効果のバランスではないので、実際の議員さんの活動内容や成果物といったように、この報酬が上がっていない期間中でアウトプットの質を上げられているのかどうか。そこが分かれば、そういったものでも定数に代わるものとして町民の皆さんが納得できる説明ができると思う。今回、議員の活動日数についてはデータを提示いただいたが、この10年間で議員活動の質をどのように上げてきたかということが本データには掲載されていなかったもので、その判断は今回できないと思う。委員がおっしゃるように、そこが示されないようであれば10年間の努力が見えないので、作戦としては定数削減しなくなってしまう。成果が無いとか努力していないということはきっと無いと思うので、そこら辺がもう少し聞けたら良いと思った。それから定数を減らせない理由として、森町は行政面積が広いという理由があったが、国会議員さんは有権者数で決めているので、理由としては一般的な考え方とは合わないのではと感じた。</p>
	特別委員会委員長	<p>調査の段階で活動日数については、議長・副議長よりも新しく議員になった人の方が、その他の活動日数が多くなっています。その内容については、泊まりで研修会へ出席するとか行政図書を読んだり議案の勉強をしたりすることが多かったようです。それから議会の取組については、住民の皆さんから意見を聞いてそれを調査研究し、町へ提言・提案するシステムをずっととってきています。また、本会議の動画配信、議会だよりの編集を議員自らが行うなど、開かれた議会を目指して努力しています。</p>
	委員	<p>行政面積が広くて定数を減らすのが厳しいという話があったが、町内会長で組織されている連絡協議会をうまく活用して、仮に三倉地区に議員さんがいなくても、三倉地区の町内会長連絡協議会の組織から情報収集するとか、やり方はいろいろあると思う。また、何らかの痛みが伴わないとなかなかこの改正案の昇給率に合意できないということではあるが、ただ定数を減らすだけが痛みではないと思う。各議員の公約を出していただいて、任期中にその目標に対してどのようなアクションを取ったのか、また進捗状況を確認して成果を振り返るようなことを、議会だよりの広報も里まちを活用して公開し、各議員の公約を公に見える化できれば、痛みとかプレッシャーになると思う。その対価として、報酬の増額があっても良いのかなと思う。</p>
	委員	<p>やはり民間感覚だと、やりませただけだと評価されない。成果主義であるので、成果としてどうだったのかというところが、どちらかという重視される。実際に結果として、森町の課題に対してどういった成果を出してきたのか。自分たちの課題に対して森町にどう結果を出してきたのかというところを見せることができれば、委員のおっしゃる痛みの代替案になる形で町民の皆さんが納得できると思う。きっと発信はされていて、そこは見てもらえれば分かる部分があるかもしれないけど、今回のこの審議会で改めて判断するということであると、そういったものが明確になっていないと、なかなかそこで良いですねと結論を出せないのかなと思う。</p>
	会長	<p>先ほど事務局から話があったように、定数を減らすとなると、これは議会の発議で</p>

		条例案を改正していかないと決まらない。それと、静岡市と浜松市では区によって議員の数を決めているので、区割りにするとか区域を決めるというやり方も一つかと思う。
	特別委員会委員長	そのような話が出れば、今後も特別委員会を継続して議論を進めていく必要があります。もし議員が減るといふことになれば、北部地域から出る議員が減るといふことは確実なので、町内会がそれでいいのかといふと、できれば一人はほしいといふ意見もありました。
	委員	三倉はすごく過疎であるけど面積はすごく広くて、その中に個々に点在していて、災害になったときは陸の孤島になってしまうので、町内会さんからも議員を減らすと困るから、誰か1人は出して欲しいといふのが正直な意見だと思う。 また、皆さんがおっしゃっている意見はどちらかといふと企業的な考え方で、企業は利益・効率・成果を追求するが、行政は行政サービスや利益が出なくてもやらないといけないことはやるというように、企業とは観点が違う。いろんなことを勘案すると、議員を減らすといふ案ももつともであるし、一方で過疎の地域では減らさないでほしいといふ声も出てくるというのも事実。今度選挙があるが、有能な方にどんどん議員さんになってもらって、町を活性化したり課題を解決したりしてもらうためには、議員報酬は上げられるものならもっと上げてほしいと思う。ただ、そこには何か中身が伴わないと、町民の皆さんは納得できないと思う。報酬が適性かどうかは、上げたときに町民の皆さんが判断することなので、ある程度議員報酬は適正な額まで上げて、立候補する人を増やして、その中から私たちの納得できる方を選んで頑張ってもらおう。無投票にならないで活性化していけるような議会になるのが、一番望ましいと思う。私個人の考えとしては、町民個人の生活は苦しいが、何年も上がっていない現状や24時間議員でいるというプレッシャーなどから、適切な議員報酬になると良いと思う。
	委員	議員になるといふのは、家族も含めて大変なことだと思う。何年も上がっていないことや、なり手不足といふことから、やはりもう少し報酬を上げた方がよい。町民が納得するには、どうしたらよいか。議会だよりだけを見ても、いろいろと分かりやすい議会だよりになってきていると思うし、もっとPRや公約といふところで議員の働きを見えるようにすることが、今後は必要だと思う。今度選挙があることを考えると、報酬を上げておかないと、選挙にならないのでは。とりあえずは少し上げるべきだと思う。
	委員	委員の意見で、議員定数削減といふところだけが町民の納得を得られるといふ意見があったが、それ以外の方法といふのはイメージとしてあるか。
	委員	25万前後くらいの報酬だとしても、新しく選挙に出ようといふ方はいないと思う。そしたら今のままの顔ぶれで、ただ横並びで報酬だけ上がるという形になる。それはそれで良いが、一町民としてはできたら活性化を望むところ。今回の審議会が19年ぶりの開催であり、ここで報酬が決まれば、5年、10年先はこのままでいくと思う。
	委員	私も事前に社員に意見を聞いてみたが、今回報酬が少し上がったとしても、これか

		ら若い候補者が出ることはたぶんだらうという意見があった。これだけが全てでは無いと思うが、報酬が一つの条件ではあるとは思う。社員の意見の中では、今の議員自体もかなり高齢の方が多くて、今から町を変えていくとか新しいことができるようなイメージがないという意見もあった。本当はもっと若い人が改革意識を持って、それが議員になったら実現できるようなことが分かっているならば、報酬はもちろんだけけれども、もっとなり手が出てくるんじゃないかと。
	委員	30万くらいに報酬が上がれば、立候補者は出てくると思う。背中を押すようなことがないと難しいのでは。
	委員	報酬は、皆さんが議員になりたいと思ったときの一つの条件だと思う。議員になったときに、自分がやりたいことや考えていることが実現できるのかというところで不安や二の足を踏んでしまうと思う。なので、議員の活動や成果、変化が町民の皆さんに伝わっていて、議員が名誉職というだけではないところがアピールできていて、町民の皆さんがそれを理解できていけば、もっとなり手が出てくると思う。
	委員	個人のマニフェストを発表して成果を見るというようなことは、具体的にできないのか。
	特別委員会委員長	マニフェストの公表と進捗、結果を広報する等の観点が必要であると思っておりますので、そこは考えていきたいと思っております。
	委員	そこの内容が、具体的に町民に説明できるのかというところが問題。
	委員	その説明が難しいので、直接的に分かりやすい手法としては、議員定数削減というのが一番分かりやすいという結論に達してしまう。
	委員	元議員や現議員といった周りの方に意見を打診すると、9割以上が定数を減らせると言っている。定数を減らす代わりに、報酬を上げるというところではないか。ここにいる8人が委員として任命されている以上は相当責任もあるし、きちんと上げるべきものは上げたいという気持ち。
	委員	定数削減以外に町民に明確に納得できるような説明をどうするかということについては、非常に難しいので、資料2-1の答申案だと、報酬を上げるということを先に言ってしまって、3(2)で意見としてはきちんと情報発信してくださいというようなことを付けていくのは、どちらかという後付けに見えるような感じがする。
	委員	ここである程度の水準で決めて、その代わり是非削減もご検討くださいと出しても、定数は議員さんが決めることなので、私がここで言うのは大変失礼ですが、100%変わらないと思う。ですから逆に削減を決めてから報酬を上げるぐらいでないと、この会議においての一番良い形にはならないと思う。
	委員	町民の皆さんにとっての報酬を上げる分かりやすい理由というのが難しいと思う。
	委員	一般の方に報酬がだいぶ上がったと言われたときに、いろいろ目標を挙げてもらってその成果を見ていくと言っても、あまり具体的に伝わらないように感じる。もちろんそれが穏便で一番良いと思うが難しい。

委員	若い人にとって報酬が高いのでなりたいというレベルについては、先ほど言われた30万とか相場よりも更に高い報酬でいったときには、そこら辺はかなり良い戦略になるのかなと思うが、今回の提案のイメージはそこまではいってなくて、どちらかというと世の中の相場観にあわせていくという感じが見受けられるため、今の議論だと少し飛びすぎてしまっている印象がある。
委員	まず理由として出している相場観に対してどうですかというのがあって、良いけど上げるにあたって右から左だといけないよねと、成果が見えないからブラッシュアップしないといけないというところで、何かの条件をつけるとかというところ。なり手不足というところで、これは議員さんから出しているフレーズなので、ここに対してどうするかというのを明確に出してくださいというのも一つの案だと思う。町民にとっても、なり手不足解消というのは町の活性化を維持するための一つのポイント。
委員	近隣や類似団体と比べて根拠を出すよりも、森町にとって適正な金額を出すことが一番である。
特別委員会委員長	定数等調査特別委員会において、最初は定数と報酬を同時に考えましたが、途中から定数は定数、報酬は報酬で別に考えるべきというのが主流になり、先に定数を考え、当面12人にすべきということが決まりました。それで現状のままで30万も要求するのはとても無理という形になり、全国の類似団体等を比較して出すことになりました。30万くらい出さないと、なり手は出てこないのではという意見はたくさんありました。
会長	この審議会の中では、定数については審議外で、報酬のことしか審議できない。そのため定数については一度議会に戻して、検討をしていただくことになる。来年ちょうど選挙があるので、タイミングとしてこの話が出てきている可能性もある。
特別委員会委員長	来年4月が選挙という前提で、一昨年からいろいろと検討をし、最終的には12月議会に出せば良いという前提で進めてきました。
委員	町内で森町のことを一生懸命考えて頑張っている若者はたくさんいて、森町はとくにそのような方が多いと思う。議員になろうとまでは至っていないのが現状。
委員	自分の今の職を辞めて議員になろうという決断をする際には、ある程度の報酬は鍵になると思う。
委員	報酬の額だけではない部分もあって、報酬ももちろんだけど、報酬以外の部分で議員になりたいと思える夢やモチベーションも大事なのでは。
委員	ダブルワークできる方たちばかりではないと思うので、やはり議員の報酬だけで生活できるという担保、ベースがあるということも必要だと思う。そのうえで夢だとかモチベーションにつながっていくのではないかな。
会長	私が議員になったときは47歳で、勤めていた農協を辞めて出馬した。そのときは報酬のことは全く考えていなくて、地域に推されて地域のために出て、いろいろな勉強をさせてもらった。地に着いて地元のことを考えて、いろいろなことを地元

		提案してみんなに応援してもらって出るというのが、今の流れになっている。
	委員	町議会議員になる方というのは、ある程度資金のある方が議員になられていたと思うが、そればかりではいけない。一般の方でも議員になることを考えられるような報酬を整備する必要がある。
	委員	議員の報酬だけで家族を養っていけて生活できるということは、最低限欲しいと思う。最低限の生活保障がないと、危なくて議員になれないと思う。今の金額のレベルでは、そこは単独では成り立たないので、改定はしていかないと。
	委員	理念や思想も大事であり、そこで議員になられる方もいると思うが、そうはいつでも自分で生活していかないといけない。ダブルワークは置いておいて、今の仕事を辞めて議員になるという過程を一般的とすると、やはり今もっている報酬よりも下がるというところで、選択肢から外れてしまう可能性がある。それが仮に1万円下がるというなら許容範囲だとしても、今のままでは数万円下がるということになる。いくらぐらいが妥当かというところが難しいが、今の案の報酬額だと、一般的に平均27、28歳くらいの年収になる。そうすると、まだまだ低いのかなと感じる。
	委員	現在の報酬では、年収はいくらになるか。
事務局		現在の報酬では、年収で323万円です。
	会長	現在、議員年金制度は廃止されていることも付け加えさせていただく。
議会事務局長		<p>議員活動実績の増えた部分については、第一回目の別添資料の報告書1ページ「1.はじめに」の8行目から説明しています。行財政問題課題研究会は平成19年6月からスタート、政策提言は平成30年6月からスタート。また、議会だよりについては、創刊号が平成11年11月15日で、定例議会ごとに年4回発行している。定例議会の翌月に3日から4日の日程で丸一日かけて編集しています。それから議会報告会は平成24年、ICT活用推進委員会は平成30年に設置。動画配信については、平成30年12月の議会の一般質問から始めており、その成果を図るというものは、今のところありませんが、その辺りで特にいろいろな活動が活性化していった経緯があります。</p> <p>それからもう一点のこれから何をしていくかという部分については、改選がありますので、今いる議員さんが言えない部分もあろうかと思えますし、選挙において全員マニフェストを作成して周知されていくと思えますので、そういったところで見ていただくのが良いと思います。</p> <p>ちなみに第一回審議会の内容については、行財政問題課題研究会の場で、私から議員全員に報告し、議員活動について、議員が思っているほど住民の皆さんに届いていない部分があるので、もっと積極的に活動内容を発信するように声掛けさせていただいたところです。</p> <p>今回、中根委員長が出席されていますので、その部分について議員に報告いただければありがたいと思います。</p>
	特別委員会委員	議会の本来の仕事というのは、執行機関である町当局から出された予算案、条例案、決算等あらゆるものがあり、その議案に対して議決機関、住民代表として慎重に審議して、決議をする。その責務が、議会の一番大事な仕事であります。それ以外に

	員長	住民に開かれた議会を目指して、このような取組をしてきました。20年前から見れば、随分増えたように感じております。こうした形での議論は常にしていきたいと思っております。
	会長	平成 19 年に行財政問題課題研究会が発足されたが、その当時に今までの議員の活動そのものを見たときに、なかなか町民への訴えが議会としてもなかった。地域から見ても、正月とかに何か見たことあるけど他のことは聞いたことがないというようなことが今までずっとあったという中で、それじゃいかんということで、議会も平成 19 年から行財政問題課題研究会をやって詰めて、地域に出向いて行って議会報告会を各地域でやろうと。いろんな意見を聞いてきて、改革をしていくことを考えないといかんということをずっとやってきた。平成 17 年の選挙で出てきた新人が 6 人いたわけだけでも、その人たちが中心となっていろんなことを考えて、かなり改革をしてきたと思う。 今の議員もやっている人とやっていない人の差はあるかもしれないが、今の議員も一生懸命やっていると僕は思っている。報酬額を見るとかなり低い額で年金もないというようなこともあると、なかなか今の状況でも厳しいというのは確かにあると思っはいる。それをこれから先の議員定数の話も附帯意見としてつけて、ぜひ議会として検討をしてもらう。これはなかなかすぐにはできない話だと思うけども、そのようなことも付け加えた中で、とりあえずは議員報酬を上げるということは、私は必要だと思う。
	委員	事務局案で出ている報酬 24 万 1 千円だと、年収はいくらになるか。
事務局		383 万円です。
	委員	その額では新しく議員になろうという方は出てこないと思う。
	委員	今の 24 万円というのは、最低限の生活保障のレベルだと思う。その金額に対して、更に若い人が飛びつくような額にするかどうかというところ。その飛び出したところまでになると、より強力な町民の皆さんが納得できるような材料が必要であって、定数削減は人件費を直接いじることになるので、最後の手段かなという感覚がある。やはりそれ以外の成果をきちんと示すべきではあるが、今のところはそういったものでも示せないということであれば、そこまでいくのは、今回は難しいと思う。ただ、選挙も近いということもあって、さすがに生活保障もできないというのは厳しいのならば、それほど納得性は得られないかもしれないけど、しっかり検討していただくというのを条件にして、最低保障レベルのこの 24 万円ぐらいのところまで答申するのが妥当かと思う。
	委員	定数削減についても、減らす人数に幅がある。定数削減が分かりやすい理由であるので、定数削減にこだわっているというところがある。
	委員	もし定数削減をしたときに、本当にサービスレベルが落ちてしまったりアウトプットの質が落ちたりするかどうかということは、今の時点では分からない。議員をやられていた方は、削減してしまうとクオリティが落ちてしまうという心配を実感として持たれているのかなと感じる。
	特別	定数を減らした場合に、先ほど言いました当局が出した議案に対する質疑、討論、

	委員会委員長	採決は、何人になってもできると思いますが、地域の声を議会に反映したり議論したりということが、削減した場合にはそれが減ってくる。そのようなことを踏まえて、現状では12名がふさわしいという結論になったものですから、もう一回差し戻して定数をということになると、今回は間に合わないのかなとも思います。
	委員	実際にそれだから難しくなるというのは感覚的にも分かるが、ただこの10年で世の中進歩しているところもあって、いろんなデジタル技術の活用だとか、そういったもので補完できる部分はある。一般企業についても、そういったものをいろいろと工夫をされて、少ない人数でできるようにやってきていると思う。そういったところが本当に今の森町の議員さんだとできないのかどうかということが、ちょっとわからない。でも、全国の町村の中で議員報酬が一番高い町ですというのは、すごく夢があっていいと思う。ただ、そこはやはり費用対効果であるので、そこだけ飛び出すというわけにはいかない。
	特別委員会委員長	私も経験していますけども、任期中の辞任により議員が2人減って10人になったときがあります。その2人がいろいろ議論をする方だったということもあるかもしれませんが、全体的に発言が少なくなりました。委員会で分かれて議論したときにも、そうした思いがあったものですから、現状の人口であれば、現状の12名が良いのではないかという結論に至りました。人口が減少していけば減らさなければならないという認識は、当然全員が持っています。
	委員	議会の発信とかY o u T u b eの活用とかといったデジタル技術の活用ともなされているので、そういった意味では効率化はされていると思う。だから、今までと同じ人数でないと同じ範囲を見ることができないというのは、ちょっと反する部分があるのかなと。定数が減っても別にできるのではというのは、私個人の意見というよりは、そのように思われる方はいるだろうなと思う。 なので、答申書1のイメージでいったときに、何故その額にしたかという理由において、そこにどれだけ納得性があるものが書けるかどうかといったときに、今の段階だと、やはりあまり極端なことは書けないと思う。やはり納得性があるようなネタが無いので、定数削減というのはキャッチーであるけど、それ以外で今ここに書いてあることだけだと、相場がそうなっているのというだけなので、やはり厳しいと思う。
	委員	やはり世論は意外と厳しい。きちんとした説明ができないと、相当厳しいと思う。
	委員	附帯意見というのは、どこまでの拘束力があるのか。ただ言いっ放しという意味合いになってしまうのか。
事務局		附帯意見について法的拘束力があるかないかと言えば、拘束力はありません。
	委員	そうすると、そのような意見が出ましたというだけになってしまう。
	会長	ただ、この審議会の委員の皆さんが一生懸命検討した結果で附帯意見として載せるので、議会も当局もしっかりこの意見を酌み取ってもらって、これだけの意見が出ているので、改善するなら改善するという事やってもらわないと。拘束力はないかもしれないが、そういう意見が出たことに対して改善していくのことはやっていってもらい必要がある

	特別委員会委員長	皆さんから出た意見は議会としても真摯に受け止めて、委員会を継続するなり、当然検討していきます。
事務局		法的拘束力があるかないかという点についてだけ言わせてもらったものですから、もちろん実際意見を見無視するようなことがあれば、次のいろんな機会でも町に対する信頼も議会に対する信頼も落ちますのでそういうことはないですけど、拘束力があるかないかという視点だけで答えると、そのような答えになるということで申し上げます。
	会長	もし仮にこの案で附帯意見をつけて出したときに、当然会長の私が町長のところに答申を持っていくわけだけでも、そのときに附帯意見については、僕もしっかり話をさせてもらって、定数については、今一度議会できちんと話をしてほしいということは、言うつもりでいる。
事務局		今回は議員の報酬ですので、私たちが議会に対して、附帯意見については附帯意見を実際にやらなければ、次回議会から報酬を上げてくれと言われても、その附帯意見についてやっていなければ、町長が断るということは十分ありますので、そこについては、私たち管理する側というか、きちんと議会にやってもらうようにしっかりとしていきたいと思っています。
	特別委員会委員長	このまま人口減少が続けば、当然議会でもそのことを考えなければいけないと思いますし、行政もスリムにならなければいけないと思います。行政需要については、人口が減っても増えているということで職員数も増やしましたが、それは将来的にはそうした場面も来るという思いであります。
	会長	議員定数を減らした場合に議論が偏るということもあるし、少数意見が反映されないということも考えないといけないので、なかなか定数というのは何人にすればいいんだというのが、地域によって町によって難しい。
	委員	例えば10名に議員定数が減ったときに、私たちの受ける影響がどのくらいなのか。南部の人口が多いところに住んでいる人たちはそんなに実感はないと思うが、山間部に住んでいる人たちの影響はすごくあると思う。定数をどうするかということについては、議会ですごく慎重に決めてくださっているんで、そこは議員皆さんの良識に委ねたいと思う。 今回の審議する報酬の額について、町から提案された金額が妥当かどうかというのは、今の税収とかいろいろな財政の中で、この20年間ぐらい変わってこなかったんで、変えるとしたらこのぐらいが妥当じゃないかという金額だと説明を受けたので、町もこのぐらいが妥当だと計算をしているのであれば、個人的にはこの報酬はちょっと安い気もするが、議員の報酬が上がるというのは良いことかなと思う。むしろ私が知っている議員の皆さんは、ものすごくお仕事をされて頑張っている方が多いので、皆さんの働きぶりを見てみると、これじゃあ安いのかなとも思う。 今回のこの報酬審議会において、金額が妥当かどうかというのは個人では判断ができないが、上げるということに関しては、町で判断して計算をされているというこ

		となので、これはこれでいいのかなど。これで要望などをたくさん盛り込んでいて、こんな議会になったら良いなというようなことを附帯意見でたくさんつけていて、それを審議していただきながら議会が変わっていけば良いと思う。
	会長	答申案については、答申案1か2のどちらかで決めていただいて、附帯意見をしっかりつけて、町長に答申していくという形にしたいと思う。 多数決で進めていきたいと思うので、挙手をお願いします。
		(答申案1 賛成5・反対2 会長以外委員7名)
	会長	答申案1が挙手多数ということで、この答申書イメージ1に附帯意見をつけることとする。附帯意見については、マニフェスト等々の文言を少し入れて、再度皆さん方に議事録と一緒に送付して意見を伺った中で、意見があれば事務局へ意見を言っていていただいて、最終的に町長へ答申をしていきたいと思う。
事務局		ありがとうございました。 答申につきましては、審議会を代表して会長から町長に行っていたきたいと思えますけれども、その前に本日議論があった議事録とあわせて、会長から話があったとおり答申の案を作成して、各委員にお分けしたいと思います。 その中で修正が必要なら赤を入れて返すというキャッチボールさせていただいて、答申をまとめていきたいと思えます。まとまりましたら、会長から町長に答申をしていただくということで、よろしくお願ひしたいと思えます。